

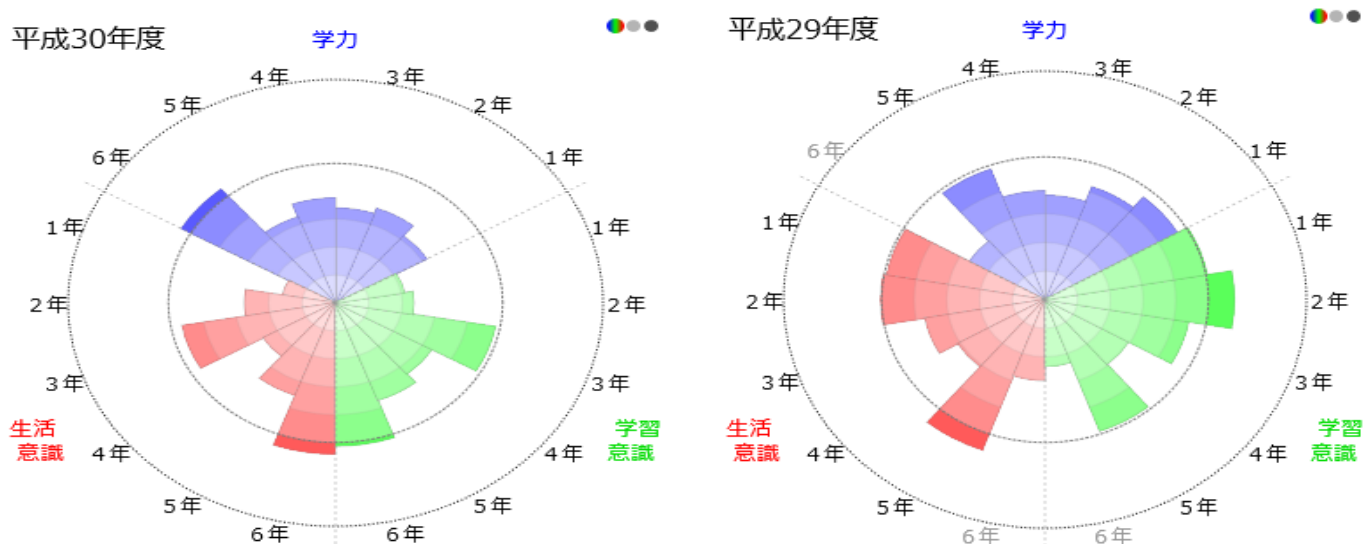
# 学力向上アクションプラン

## 1 学校の状況と地域の実態

- 本校はユネスコスクールとして、ひと・もの・ことをつながり意識した学習に取り組んできたが、一方で、学習の基本になる語彙力・読解力に課題が見られる。
- 子どもたちの様々な学習活動に対して、地域の方々が協力してくれている。体験を伴った活動の充実につながっている。
- 校内研究等を通して、授業づくりの改善を図っているが、教材研究の時間が十分に取れていない。
- 幼保小中連携・一貫教育の推進に向け、山王台幼稚園・永田保育園・永田小・永田中との連携を進めるだけでなく、地域とのさらなる連携も進めている。

## 2 中期学校経営方針「確かな学力」達成に向けて

- 教科等の学びの充実を図る校内研修を計画し、授業力向上に取り組む。
- 会議等を精選し、教材研究をする時間を確保する。
- 週3回のスキルタイムの内容を系統立てて整理し、学力向上につなげる。
- 学校と家庭の連携により、家庭学習の習慣化を進め、基礎・基本の定着を図る。



## 3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年の実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均よりかなり学力は低い。さらに、生活意識、学習意識も平均を下回っている。ここから、学力を向上させるためには、生活意識や学習意識を高めていく必要があることが分かる。

また、基礎的な学力に課題があり授業が難しく感じる児童が多く、こうした児童に自己有能感の低さが目立っている。授業を通して、技能を身に付け、さらに意欲をもって学び続けようとする力を育む授業展開に工夫する必要がある。

### (2) 教科学習の状況

- 国語 読む・書く・話す・聞く等の基礎基本となる知識・理解の獲得が不十分である。漢字の定着に落ち込みが目立ち、語いの不足も見られる。
- 算数 数学的な考え方につながる知識・理解や、計算等の表現・処理の技能が定着していない。低学年でのやり残しが高学年の学習までつながっている。
- 社会 資料の読み取り、思考・表現の基礎となる知識・理解の定着が不十分である。
- 理科 観察実験の結果を整理し考察する思考・表現の力が弱い。

## 4 目標と具体的方策

(1) 「一人一人が輝く永田台 ～夢中になって学び続ける一人一人を目指して～」

(2) 学年・教科等としての取り組み

### 1 学年

- 視覚的な支援、簡潔な言葉かけをすることによって、生活面・学習面において自分のことは自分でできるように、基礎基本を定着させていく。
- 生活科の学習を通して、自分たちが安心・安全に生活できるように、たくさんの方が関わってくれていることに気づかせる。
- 国語科の学習を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、友達となかよく生活ができるようにする。

### 2 学年

- 子ども達の日常生活につながるような学習課題を設定し、学ぶ意欲を高めていく。
- 生活科を学習の柱にし、そこでの気づきを文章で表現したり、発表しあったりするなど、教科横断的な学びを進めていく。
- 算数では、知識・理解、技能の能力を高めるために、授業の流れが分かり、子ども達の学びの助けになるような板書に取り組む。

### 3 学年

- 学習活動を通して、わかることや学び合うことの楽しさを味わえるようにし、学ぶ意欲を高める。
- 列挙したり、順序をつけたりして考える学習を計画的に位置づける。
- 国語科では、スキルタイムや家庭学習などで、新出漢字を繰り返し練習したり、日々の学習のなかで、既習の漢字を使ったりすることを、場面に応じて指導する。
- 算数科では、日々の授業のなかで、身の回りの事象を題材として取り上げ、学習意欲を高めていく。

### 4 学年

- 基礎基本の定着を図れるように、スキルタイムや家庭学習などで、繰り返し練習をし、日々の学習の中で確認を行うようにする。
- 理科では、基礎的な知識や技能を身に付けられるように、各単元だけでなく、継続して学習の中で確認しながら、実際に操作して定着を図る。
- 社会科では、各学習において、資料を提示したり、まちで調べた事まとめたりして、学習の意欲を高めながら、整理分析する力を高めていく。

### 5 学年

- 読み、書き、計算の基本を大切にし、基礎力の定着を図る。
- 社会科では、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けられるようにノート指導に取り組む。
- 総合的な学習の時間では、課題解決に向けて、比較、分類、関係づけるなどして情報を整理・分析する力を高めていく。

### 6 学年

- 読み、書き、計算の基本を大切にし、基礎力の定着を図る。
- 教え合い、伝え合う活動を取り入れ理解の定着に努め、話し合いを通じて表現する力を伸ばすようにする。
- 既習事項の確認やドリル学習を大切にして、学習習慣をつける。

### 個別支援学級

- 毎日見通しをもって学習ができるように工夫をすることで基本的な学習習慣を確立する。グループ編成を工夫して目標を明確にしたり、教材の内容を発達段階に合わせて工夫したりすることで一人ひとりに応じた学びが得られるようにする。
- 児童の興味関心に沿った教材を工夫することで学習意欲を高める。また、できた喜びが視覚的に理解できるような工夫をしながら達成感を感じられるようにする。そして、チームとしての目標をもつことで小集団の中での学びを充実させるようにする。